

本報告書に対する 有識者意見

国立大学法人
千葉大学
大学院 園芸学研究科
准教授
岩崎 寛^{ゆたか}氏



専門：緑地福祉学、人間植物関係学、環境健康学
主な活動：日本緑化工学会理事、日本園芸療法学会理事等

全体的に、UR都市機構の取組について大変わかりやすく整理されており、環境活動に対する報告書としてしっかりまとめられていると思います。また、昨年度の有識者からご指摘があった下記の3点について、本報告書ではいずれも改善されている点を評価したいと思います。

- ① 事業活動が変革につながっていることをアピール
- ② 気候変動に関する適応策の明確化
- ③ 目標達成・未達成の要因分析

①については、「価値創造ストーリー」(→P.3～4)や「事業活動がもたらす社会変革について」(→P.12)にて、UR都市機構の事業活動がさまざまな価値を作り出し、ステークホルダーと協働して社会の変革につなげていることが図によってわかりやすく解説されているほか、各ページで新しい取組にマークをつけ、従来の取組との違いが一目でわかるようになりました。

②については、緩和策と適応策について解説した上で当該事例にマークを付けるとともに、具体的な対応内容をわかりやすく示しています。

また、③についても、実績を示すとともに、「自己評価」の項目でその要因について詳しく掲載しているなど、昨年度のご指摘を真摯に受け止め、着実に改善されていると感じました。

一方で、「人」の視点が弱い印象を受けました。UR都市機構らしい報告書とするためにも、次年度は以下の点に取り組みたいと思います。

人の視点に立った環境活動をアピール

「人が快適に暮らすためのまち・住まいを創出する」という点が、UR都市機構の特徴であり強みでもあると思います。環境配慮方針(→P.7)に沿って、環境配慮にしっかり取り組まれています。その取組をもう少し人の視点に立った形で伝えることを意識されてはいかがでしょうか。「UR都市機構が環境配慮に取り組むのは、人が快適に暮らす環境を創出するためである」という構図が見えるとよいと思います。

社会貢献活動(→P.36～49)の分野では、UR都市機構が貢献するSDGsとして目標3(健康と福祉)を示していますが、社会貢献活動のみならず環境活動においても目標3に貢献していることを前面に押し出すとよいと思います。緑の環境を創出することそれ自体が、人の心身の健康に寄与することが研究によって示されており、また新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、多くの人々が緑地や公園などの重要性を実感しました。UR都市機構は環境保全だけでなく、「健康や福祉」といった視点からも環境配慮を推進していることを、目標3を掲げることでアピールしていただきたいです。

新型コロナウイルス感染症への対応を集約してわかりやすく

新型コロナウイルス感染症への対応は、ステークホルダーの最も関心の高いトピックです。本報告書では、新型コロナウイルス感染症に関する取組が各ページにバラバラに点在しており、UR都市機構がどのような対応を行ったのかが読み取りにくいと感じました。今後も新型コロナウイルス感染症に対応した活動を実施していくと思いますので、特集などの枠を設けて、まとめてわかりやすく報告してはいかがでしょうか。